

## 世界ことば紀行2・チャモロ語〜グアム、サイパンのことば〜 小林昭美

チャモロ語はグアム、サイパンなどで話されていることばである。現在では日本から一番近い南の島として観光地になっているが、太平洋戦争の激戦地である。

私はNHKの同僚とゴルフをしに行ったことがある。崖の多い島で、海越えのホールインワンを狙えるコースがあつて、普段なら越えられる距離だと思って打つが、力んでいるせいかグリーンには届かず、波が打ち寄せる崖にあたってポチャン。

こんな時にも必ず現地のことばの本を探すというのが私の旅のスタイルである。ハワイ大学出版部から”Chamorro Reference Grammar”という文法書と”Chamorro-English Dictionary”という立派な本が出版されていて、いずれも300ページを超える本格的な本である。

サイパン島の近くには東京大空襲に向かう爆撃機や広島に原爆を落とした飛行機の基地となったテニアン島もある。

現在の旅客機はジェット機でニューヨークやパリへも無着陸で行けるが、太平洋戦争中の飛行機はプロペラ機である。昭和16年に日本軍が真珠湾を攻撃した時も、日本を離艦したプロペラ機が現地の近くで編隊を組んで飛行機が直接ハワイを攻撃したわけではなく、航空母艦に載せられた飛行機が敵に察知されないようにハワイに近づき、攻撃したのであった。その後もアメリカ軍は戦艦から艦砲射撃をしていた。しかし、艦砲射撃はワンポイントであり、命中の確率も高いとはいえなかった。アメリカ軍はテニアン島の戦いで島を占領すると飛行場を建設した。B29のような大型の爆撃機が次々に離陸して、編隊を組んで本土攻撃ができるようになった。焼夷弾は日本の木造家屋を焼失させて、日本人の戦意を奪う十分な効果があつた。広島や長崎に原爆を投下した飛行機もテニアン島の飛行場から離陸したものであった。

私をはじめアメリカへ行った1960年代前半には、飛行機はプロペラ機としては最大といわれたDC7であった。ハワイまで直行し、サンフランシスコで乗り継いでニューヨークにたどり着いた。帰りは貿易風が向かい風で、そのうえ当時日本人は帰りには必ずジョニーウオカーを免税品の制限本数ぎりぎりまで買って帰ったので、満席になると積載量オーバーで帰路はウェーキ島で給油して帰ってきたものである。ウェーキ島はサンゴ環礁の島で離陸する飛行機の窓から、太平洋戦争中に座礁したと思われる錆びた貨物船が、青い海にそのまま放置されていた。その姿が今でも目に焼きついている。

その後、1970年代になりジェット機の時代になると、北極圏ルートが開発され、アメリカへ行くにもヨーロッパへ行くにもアラスカのアンカレジ経由になり、ハワイを経由することは少なくなった。

グアム島は大航海時代1521年にマゼランによって発見され、スペインの植民地となった。1898年には米西戦争によってアメリカは支配することになる。太平洋戦争中は1941年から1944年まで日本軍が占領支配した。そのためチャモロ語のなかには外来語が多く含まれ

ている。

チャモロ語では「こんにちは」は *buenos dias*、「さようなら」は *adios* で、いずれもスペイン語からの借用語である。日本語の語彙も、日本軍統治時代にとりいれられていて、*denke* (電気)、*chirigame* (ちり紙)、*chimboko* などが残っているという。

日常使われているチャモロ語はつぎのようなものである。

「ご機嫌いかがですか」 *Hafa dai*、

「ありがとう」 *Si yu'us ma'ase*、

「小さい」 *dikike'*、「とても小さい」 *dikikikike'*、

「大きい」 *dankolo*、「とても大きい」 *dankololo*、

「今何時ですか」 *ki ora*

「私は銀行に行くところです」 *Bai falak y banko*、

「私は仕事に行くところです」 *Bai falak y checho*、

「私はお店にゆくところです」 *Bai falak y tenda*。

しかし、私のチャモロ語の勉強は受験勉強のためでもなく、商売のためでもない。また、グアムの人々と日常会話ができるようになりたいためでもない。

もし、神がことばを作りたもうたのであれば、神はチャモロ語のなかにどのような仕組みを作っていたのか。また、もし人間が生得のものとしてチャモロ語を話すようになったとすれば、チャモロ人の脳のなかの認知機能はどうなっているかを垣間見たいのである。

ことばの研究のためにはロゼッタストーンのように同じ文章を2か国語、あるいは3か国語で書いたものがあれば、比較するのに便利である。ところが、チャモロ語にもロゼッタストーンがあったのである。聖書は布教のために世界のほとんどのことばに翻訳されていて、チャモロ語にも翻訳されている。聖書のなかの聖句はチャモロ語ではどのように表現されているのだろうか。

翻訳聖書ヨハネ福音書第一章 (American Bible Society) 1908

### 1. 初めにことばがあった。

*Y tutujonña gaegue y Finijo,*  
(定冠詞) 初め- -である (定冠詞) 言葉

ことばは神とともにあった。

*ya y Finijo güiya yan si Yuus;*  
だから (定冠詞) 言葉 それである -と -さま イエス

ことばは神であった。

*ya y Finojo güiya si Yuus;*  
だから (定冠詞) 言葉 それである -さま イエス

- *y* は冠詞である。チャモロ語には *y*、*ni*、*nu*、*na*、*nai* などがあって、その用法は複雑で、簡単には説明することができない。*y* は英語の *the* にあたる。

- *güiya* は三人称代名詞で英語の *he* (男性) *she* (女性) *it* (中性) のいずれにも用いられる。
- *si* も一種の冠詞で、次に来ることばが固有名詞であることを示すマーカーである。
- チャモロ語の語順は日本語と違って主語+動詞+補語または目的語である。

2. このことばは、初めに神とともにあった。

*Güiya gaegue gui tutujonña yan si Yuus.*  
それは である それ 初め- -と -さま イエス

3. 万物は神によって成った。

*Todo y güinaja sija manmafatinas pot güiya;*  
すべての (定冠詞) 富 それら 創造される (受身) -によって 彼

成ったもので、ことばによらずに成ったものは何一つなかった。

*yaguin ti pot güiya, taya ni esta*  
仮に (否定) -によって 彼 何もない (関係代名詞) すでに

*mafatinas, nu y gaegue gui finatinas sija.*  
創造される (受身) (冠詞) (冠詞) である それ 創造物(名詞化) それらの

- *Manmafatinas* あるいは *mafatinas* の *fatinas* は「創造する」「建築する」「料理する」などの意味で使われることばである。*mafatinas* の *ma* は受け身のマーカーである。
- チャモロ語には焦点形という文法形式があって、*Manmafatinas* の *man-*は動作主に焦点をあてる焦点を形である。チャモロ語やタガログ語などフィリピン諸語では焦点形が重要な役割をはたす。
- *ti* は否定を表示するマーカーである。
- *ni* は英語などの関係代名詞に相当することばである、

ことばは語彙と文法でできていると教えられていたし、私もそう考えてきた。しかし、未知の言語を解説しようとするときさまざまな問題に遭遇する。例えば、冠詞といっても *y* ばかりでなく *nu* もある。その違いが分からない。また、同じ *ma-*でも三人称複数(*they*)をあらわすこともあり、受け身を表すこともある。ことばは「気まぐれ」である。

次にマタイ福音書第6章についてみることにする。

9. だから、こう祈りなさい。

*Lao an manmanaetae jamyo taegüine:*  
でも そのとき 祈りなさい (命令形) あなた方は このように  
天におられるわたしたちの父よ、御名 (みな) が崇められますように。

*Tatanmame na gaegue jao gui langet: umatuna y naanmo.*  
われらの父 の である あなた その 天 たたえられる (冠詞) 名前

- *manmanaetae* の *man* は命令形である。*manaetae* は「祈る」、接頭辞の *man-*は命令形をあらわす。

- チャモロ語辞典では manmanaetae は fanfanaetae という表記になっている。しかし聖書では manmanaetae と表記されている。また、jamyo は辞書では hamyo と表記されている。辞書があっても解読は困難である。ロゼッタストーンを解読したシャンピニオンの苦勞はいかばかりであったろうか。グアム島は航海時代以来約500年にわたってスペインの支配下にあったので、綴り字にもスペイン語の影響がみられる。

#### 10. 御国 (みくに) が来ますように。

Umamaela y raenomo,  
めぐり-来る (冠詞) 王国-あなたの

御心 (みこころ) が行われますように。天におけるように地の上でも。

umafatinas y minalagomo jaftaemano gui langet taegüijija gui tano;  
双方で-成る (冠詞) 望み-あなたの の方法 で 天国 のように で 地上

- Uma は再帰を表示する接頭辞であり、maela は来る、で「めぐり来る」という意味になる。Umafatinas は回帰をあらわす uma と fatinus (創造する、成る) でヨハネ伝の第2節に出て来た「万物は神によって成った。」の manmafatinas (創造される・受身) と同じ語根である。
- raenomo は raino (王国) と mo (二人称単数所有格) であり。minalago-mo (あなたの望) の mo も同じで、チャモロ語では修飾語が被修飾語の後にくる。mo は辞書では mu と表記されている。

#### 11. わたしたちに必要な糧を今日与えてください。

Naejam pago nu y cada jaane na agonmame;  
与えたまえ+我等に 今日 (目的焦点形) (冠詞) 毎 日 の 糧食+我らの

- Naejam の nae は「与える」、jam は一人称複数・除外形。
- agonmame の agon は「主食」、mami は一人称複数・除外形の所有格。

#### 12. わたしたちの負い目を赦してください。

Ya asijam nu y dibenmame,  
そして 許す+われわれを (目的焦点形) (冠詞) 負債+われわれの

わたしたちも自分に負い目のある人を赦しましたように。

taegüi-je yan inasisie y dumidibejam sija;  
このように また (一人称複数除外形) 許す (冠詞) 負債を+われわれが負う 彼らを

- asijam の asii は「許す」、jam は一人称複数除外形。
- dibenmame の dibi は「借金、負い目」、-mame は一人称複数除外形の所有格「われわれの」。
- inasi'i の in- は目的格焦点形表示形の接頭辞であり、asi'i は「許す」。
- dumidibejam の語幹は dibe (負債) で -um- は接中辞である。チャモロ語には接中辞には -um- (行為者焦点形) と -in- (目的語焦点形) がり、語頭の子音と最初の母音の間に挿入される。接中辞である。dumidibejam の語幹は dibe であり、-um- は行為者焦点

形であり、接尾辞の-jam は一人称複数除外形である。

- チャモロ語には接頭辞や接尾辞ばかりでなく接中辞というものがあり、単語の前や後ではなく、単語の中に埋め込まれる。チャモロ語の接中辞には行為者に焦点をあてる-um-と、目的語に焦点をあてる目的語焦点形がある。
- sija は3人称複数の強調形である。

### 13. わたしたちを誘惑に遭わず、

Ya chamojam pumópolo na infanbasnag gui tentasion,  
そして するな-我々を ○○-場所 の 我々が転落する(未来形) その 誘惑  
悪い者から救ってください。

lao nafanlibrejam nu y taelaye;  
また 救いたまえ+我々を (目的焦点形) (冠詞) 悪者

- chamojam の chamo は don't (するな) と jam (一人称複数除外形) で、「我々に○○しないでください」
- pumópolo は Donald M. Topping et al. の "Chamorro-English Dictionary" に載っていないので不明。polo には「場所」という意味がある。um は接中辞であろう。脈絡からすると「地獄」であろうか。
- infanbasnag の basnag は「落ちる」「転落する」。接頭辞の in は一人称複数除外形・主格、接中辞の fan は丁寧形(please)である。
- tentasion は「誘惑」で英語の temptation と同源である。スペイン語からの借用語であろう。
- nafanlibrejam の na は使役の接頭辞で「させる」、接中辞の fan は未来形をあらわす。また、接尾辞の jam は一人称複数の除外形である。libre はスペイン語からの借用語で「救う」である。Nafanlibrejam は結局「我々を救いたまえ」ということで、ひとつの単語でひとつの文章を完結していることになる。
- nu は目的焦点形で目的語に焦点をあてる。目的焦点形には-in-,i-,si-,nu-,ni などがある。国と力と栄えは限りなく爾(なんじ)のものなればなり。

sa iyomo y raeno, yan y ninasiña  
ゆえに あなたの (冠詞) 王国 と (冠詞) 力

yan y minalag para taejinecog na jaane; Amen.  
と (冠詞) 栄光 ために 永遠の の 日 アーメン

- iyomo の mo は二人称単数所有格、iyo は「所属する」の意味がある。

日本語はどこから来たかという問いがある。言語学者のなかにはオーストロネシア語(南島)と同系であると考えの人がいる。島崎藤村の「名も知らぬ 遠き島より 流れ寄る 椰子の実ひとつ」というロマンチックな詩もあり、南の島はロマンを誘う。しかし、この聖書の対訳でみると、日本に一番近い南の島グアム・サイパンのことばであるチャモロ語と

は単語も文法も似ているようには思えない。

日本語とハワイ語、チャモロ語を比較してみる概略つぎのようになるとされる。

[日本語]

[日本語] [チャモロ語] [ハワイ語]

【統語】

- |                   |   |   |   |
|-------------------|---|---|---|
| ○ 主語+目的語+動詞である。   | ○ | ● | ● |
| ○ 形容詞は名詞の前にくる。    | ○ | ● | ● |
| ○ 疑問文は文末に疑問標識をおく。 | ○ | ● | ● |

【形態】

- |                         |   |   |   |
|-------------------------|---|---|---|
| ○ 1人称複数の代名詞に包含形と除外形がある。 | ● | ○ | ○ |
| ○ 双数と複数の区別がある           | ● | ○ | ○ |
| ○ 冠詞がある。                | ● | ○ | ○ |
| ○ 接中辞がある。               | ● | ○ | ● |
| ○ 焦点形がある。               | ● | ○ | ● |

【音韻】

- |                         |   |   |   |
|-------------------------|---|---|---|
| ○ r と l の区別がない。         | ○ | ※ | ○ |
| ○ 開音節で p,t,k で終わる音節はない。 | ○ | ○ | ○ |

※チャモロ語では r はほとんど外来語に使われており、スペイン時代以前はなかった音だと考えられている。

チャモロ語、ハワイ語などはオーストロネシア語と呼ばれ、太平洋の島々（ポリネシア、ミクロネシア）からインドネシア、マレーシアを経てアフリカのマダガスカルまで広がっている大言語族である。ヨーロッパ系の言語にはみられない、さまざまな文法的な仕掛けがみられるが、チャモロ語とハワイ語の間にも違いがみられる。

日本語と共通するのは開音節（音節が母音で終わる）ということと、l と r の区別がないということだろうか。それにしても、私は人類の使っていることばの多様性に圧倒される。その多様性にもかかわらず、聖書の思想が日本語も英語も、ハワイ語もチャモロ語も、それを母語とする人々にとっては何の不自由もな伝えられるという事実には、畏敬ともいえる感情をいだくに至った。

次回はアイヌ語